

令和 5 年 4 月 30 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2022

課題番号：20K23128

研究課題名（和文）出産への思い質問票の短縮版の開発と有用性の検討

研究課題名（英文）Development of a brief scale for the Japanese version of the Wijma Delivery Expectancy/Experience Questionnaire

研究代表者

臼井 由利子 (Usui, Yuriko)

東京大学・大学院医学系研究科（医学部）・助教

研究者番号：60821246

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000 円

研究成果の概要（和文）：出産への思い質問票（日本語版Wijma Delivery Expectancy/Experience Questionnaire: JW-DEQ）の短縮版を作成し、妊娠各期、出産歴が異なっても使用できる尺度の検討を目的として、Webによる3時点縦断観察調査を実施した。回答が得られた721人を対象に、項目反応理論（Item Response Theory）を用い分析をおこなった。各項目の情報量を算出し、短縮版の項目を選定した。短縮版で測定した出産恐怖感の関連要因についても解析を実施し、今後成果として公表していく。

研究成果の学術的意義や社会的意義

周産期ケアを評価する上でポジティブな出産体験が重要な指標となっており、妊娠中の出産恐怖感が強く影響を及ぼすことが明らかとなっている。出産恐怖感の測定には、the Wijma Delivery Expectancy/Experience Questionnaire (W-DEQ)が研究で広く使用されているが、項目数の多さから、臨床での活用や大規模研究での使用の難しさが指摘されている。本研究では、短縮版尺度を作成し、関連要因を明らかにすることを目的とした。短縮版によって、対象者の負担を軽減できるとともに、今後多くの対象と時点で使用でき、妊娠中の出産恐怖感へのケア構築につながることを期待される。

研究成果の概要（英文）：A longitudinal, web-based observational survey was conducted to develop a brief scale for the Japanese version of the Wijma Delivery Expectancy/Experience Questionnaire (JW-DEQ) that could be used at each trimester of pregnancy and by parity. The data of 721 respondents were analyzed using Item Response Theory. The items with the greatest amount of total information were selected. Factors related to fear of childbirth measured in the short version of JW-DEQ were also analyzed, and the results will be published in the future.

研究分野：Maternal and Child Health

キーワード：Fear of childbirth Birth Experience Scale Pregnancy

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

近年、医療的介入によって、妊産婦・新生児死亡率は低下している一方で、母親自身のポジティブな出産体験が阻害されていることが問題視されており、周産期ケアを評価する上でポジティブな出産体験が重要な指標となっている。ポジティブな出産体験は育児困難感が軽減し、自身の母親役割に対して肯定的に受け止められることが明らかとなっており、ネガティブな出産体験は、産後うつ、PTSD 症状、不良な母子関係、母乳育児率の減少との関連が明らかとなっている。出産体験には、妊娠中の出産恐怖感が強く影響を及ぼすことが明らかとなっているが、そのケア方法は確立されていない。

妊娠中の出産恐怖感、産後の出産体験へのケアを開発するためには、それぞれを適切に評価するためのツールが必要である。妊娠期から産後の妊娠・出産に対する思いを測定する最も一般的な測定方法として、スウェーデンの Klaas Wijma が開発した自己記入式質問紙 the Wijma Delivery Expectancy/Experience Questionnaire (W-DEQ) がある。W-DEQ は妊娠中の出産恐怖感を測定する version A と産後の出産体験を測定する version B があり、様々な言語に翻訳され、日本語版も開発されており、その信頼性・妥当性が検証されている。W-DEQ が研究では多く使用されているものの、33 項目という項目数の多さから、臨床での活用や大規模研究での使用の難しさが指摘されている。

### 2. 研究の目的

本研究では、対象者に負担が少なく、より簡便に測定できる出産への思い質問票（日本語版 Wijma Delivery Expectancy/Experience Questionnaire: JW-DEQ）の短縮版を作成し、妊娠各期、出産歴が異なっても使用できる尺度の検討をする。また妊娠各期の出産恐怖感が出産体験、妊娠出産アウトカムや産後の心理状態にどのような影響を与えているかを明らかにする。妊娠各期の出産恐怖感に影響を及ぼす個人的要因と心理社会的要因を明らかにすることで、具体的な介入方法を検討するための知見を得ることを目的とした。

### 3. 研究の方法

#### (1) 文献検討および既存データ解析

W-DEQ を使用した国内外の先行研究をレビューし、研究動向と位置づけを整理した。さらに、既存データの解析を行い、本調査で用いるべき関連要因の検討を行った。

#### (2) Web 調査

JW-DEQ 短縮版の作成を目的とし、2021 年 10 月～2022 年 9 月に Web による 3 時点縦断観察調査（Time 1：妊娠中期、Time 2：妊娠後期、Time 3：産後 1 か月）を実施した。調査対象はインターネットリサーチ会社のモニターに登録しており、本研究への参加を希望する者とし、除外基準は 20 歳未満、日本語の読み書きが困難な者とした。

#### (3) 倫理的配慮

研究参加は任意とし、Web 上で全ての参加者から研究の同意を得た。東京大学医学部倫理審査委員会の承認を得て実施した (No. 2021120N)。

## 4. 研究成果

### (1) 文献検討および既存データ解析

既存データの解析では、JW-DEQ で測定した出産恐怖感を抱える女性の中に、健康関連 QOL の低下がみられる他の女性とは質的に異なるグループの存在を明らかにした。さらにそのグループを特定するための JW-DEQ のカットオフ値を初産婦・経産婦それぞれに設定し、関連要因を明らかにした。関連要因には、初産婦・経産婦ともに胎児に対する不良なボンディング、抑うつ症状が重度の出産恐怖感のリスクを高める要因であることが明らかとなった。経産婦ではそれらの要因に加え、前回の出産への満足感や、助産ケアに対するより好意的な評価が重度の出産恐怖感のリスクを下げる要因であることが明らかとなった。

既存データの解析と文献レビューから、医療者が提供したケアに対する妊婦自身の受け止めが、出産恐怖や出産体験に関連する重要な変数であると考え、ケアに対する受け止めを測定する尺度に関して国内外の先行研究のレビューも実施した。

### (2) 日本語版妊娠・分娩期ケアの質評価尺度の開発と妥当性検証

レビューの結果、本邦には妊娠期・分娩期を通してケアの質を評価するための簡便な尺度がないことが明らかとなったため、オランダで開発されたケアの質に対する女性の認識を測定する尺度である Pregnancy and Childbirth Questionnaire (PCQ) の日本語版を開発した。PCQ は妊娠期から分娩期のケアを産後 1 時点で振り返って評価する。原著者からの許可取得後、翻訳をし、パイロット調査として産後 5 名の女性を対象に認知的インタビュー調査を実施した。インタビュー内容を研究者がレビューし、原著者による確認を得た後、妥当性検証調査を実施した。妥当性検証には、Web 縦断調査の Time3 データを使用し実施した。その結果、十分な妥当性・信頼性を確認することができた。

### (3) JW-DEQ 短縮版の作成

Web 調査で得られたデータを解析した。Time 1 の調査に回答した者は 761 人、さらにその中で Time 2 の調査にも回答した者は 183 人 (24.0%)、Time 3 の調査に回答した者は 301 (39.6%) であった。複数の項目間の回答の整合性がなかった 40 人を除外し、最終的に 721 人を解析対象とした。

短縮版には項目反応理論 (Item Response Theory; IRT) を用いた。JW-DEQ の回答形式に従い、Samejima (1969) の段階反応モデル (graded response model; GRM) を使用した。IRT の前提条件となる一次元性、局所独立性、単調性を各下位尺度で確認をした。各項目の情報量を算出し、短縮版の項目を選定した。関連要因についても分析を実施し、今後成果を公表していく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Usui Y, Haruna M, Sasagawa E, Yonezawa K, Hikita N.
2. 発表標題 The identification of pregnant women with severe fear of childbirth using the Japanese version of the Wijma Delivery Expectancy/Experience Questionnaire.
3. 学会等名 The 25th East Asian Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------